

アンゲリア  
àngǎrlǐà

「アンゲリア」はギリシャ語で「ニュース・伝言・メッセージ」という意味です。

何かと不安を抱える新生生の履修登録を支援すべく、学内から14名の有志がセンター学生相談員として登録し、良き先輩として活躍してくれました。学生相談員は、チュードント・アシスタント(SA)としてだけでなく、大学生基礎力調査の会場準備、Web履修登録の操作説明、全学共通教育事務室窓口での再々履修登録申請の受付・履修登録科目の削除の受付、TOEIC-IP会場準備等、アドミニストレイティブ・アシスタント(AA)的な役割も担いました。今回、学生相談員としての仕事を通じて感じたことを紹介していただきました。



## 教育学部国語教育講座2年 桑原 篠太郎

はじめに、私が学生相談員を経験して思ったことは、「良い経験になった」ということです。

普段は、曇りガラスで仕切られて見ることのできない全学共通教育事務室の裏側を見ることができた、稀有な機会だったと思います。新生生に対する、履修説明といった業務や、新生生の不安に対して相談にのったりといった、責任ある業務をいくつもこなしてきました。中には、大変に感じるものもありましたが、周りの学生相談員や、事務の方々の多大なる支援のおかげで、とても楽しくこなしていくことができました。そのおかげで、この4月の時間の密度はとても濃く、充実したものでした。次に、この学生相談員という制度について思ったことです。

私が新生生のときにも、学生相談員の方々には大変お世話になりました。大学に入ったばかりで、まだ右も左もわからないうちに、ガイダンスで「web履修登録」や「AIMS-GIFU」などの説明を聞いても何かなにやらさっぱりわかりませんでした。自分の周りの数少ない友人(まだ、入学したてだったので)に聞いても、「よくわからん」と口をそろえるばかりで、先生に聞こうと思っても、入学当初はとても気難しい先生ばかりというイメージがあったため(月日がたつと、そのイメージの誤りに気づきましたが)、怖くて聞きにいきませんでした。そんなときに、相談にのってくれたのが学生相談員の方々でした。非常にわかりやすく、丁寧に応じていただき、当時の私は大変助かりました。こういった、自分の関係からも、学生が気軽に相談にのってくれる学生相談員は非常に意義あることだと思います。

最後に、新生生の皆さん(つまり、来年度には先輩と呼ばれる方々です)や、あるいは学生相談員を経験していない、現2・3年生の方々には、来年はぜひともやっていただきたいと思います。これだけ良い経験ができて、しかもお給料までいただける仕事は中々ありません。来年は、是非とも学生相談員に応募してみてください。



## 地域科学部地域文化学科4年 瓜野 早紀

履修相談員の仕事を通して、普段はあまり時間を共にすることのできなかつた全学共通教育の事務の方々と一緒に働かせてもらう事ができ、全教事務室の方々が岐阜大学生のことを本当に大切に考えてくださることがわかりました。特に、履修相談員の私たちに、積極的に意見や改善点を求めてくださったり、新生生がよりわかりやすいように説明を工夫され、事務室に訪れる学生さんに対し丁寧に対応されている姿が印象的でした。そのような素敵な職員の方々と働かせていただく中で、学生がもっと大学をよくするために協力していかなければならないと思いました。学生と事務の方々が一緒に働くということは、事務の方々が学生の意見を知る機会となるだけでなく、学生が大学について改めて考え直すきっかけにもなりました。

また、新生生の方々に対応する際には、先輩としてのあるべき姿を意識し、言葉遣いや態度に気をつけ、丁寧に接することを心がけました。ガイダンスの際には、質問していただいたことに、自分が分かる限りの経験と情報で答えていきました。同じような内容の質問をされるが多かったので、そこは事務職員の方々と交流会で報告するという形で、新生生の意見を反映させるということができたと思います。また、再々履修登録のお手伝いの際には、対応に追われることも多かったのですが、忙しい中でも、一人一人の学生さんと向き合い、丁寧に対応するように心がけました。最後の履修相談員と事務の方々と交流会では、ほかの履修相談員の方々がどのような思いで仕事をしてきたのか、どのような改善点を見つけたのか、それに対するアイデアなどを聞き、話し合うことができたので、本当に有意義な時間が過ごせたと思いました。

この履修相談員を通して、日ごろから全共事務の方々が学生のことを大切に思って働いてくださっていることを実感しました。ありがとうございます!そして、私たち学生も主体的になって大学について考え、ともによりよい大学を創っていけるといいなと思いました。



## 医学部看護学科4年 丸本 麻貴実

私が1年生のころを思い出すと、入学時のガイダンスで授業案内を受け取り、自分で受けたい授業を十分な間もないうちに決めなければならませんでした。私は当時黒野寮に入居しており身近にたくさん先輩方がいたため、授業に関して様々なことを教えてもらうことができました。しかし、そのような先輩方のアドバイスがなければ、私はすごく不安を抱えたまま大学生活のスタートを切っていたらと思うます。そこで私は今回、新生生が履修に関して分からないことがあれば、経験者の立場からアドバイスなどを行うことのできる学生相談員となることを希望しました。実際には、私は相談員として履修の再々申請、取り消し期間の窓口対応のみにとどまり、授業選択に関するアドバイス等は出来なかったのが残念でした。

授業の取り消し理由として多かったのが、「授業単位数が上限に達したため」でした。その中には抽選が行われた科目もあり、他に履修希望者がいることを考えると履修登録に際しては十分に注意して行われるべきであると感じました。一方、取り消し理由の中には「内容が自分の希望していたものとは違った」といったものもありました。数多くある授業の中で自分の学びたい授業を見つけることは容易ではありません。しかし、専門科目の基盤となる全学共通科目では広い視野を持って学びを深めることができれば、大変有意義なことだと思います。

最後に私が述べたいのは、全学共通科目は決して「楽な授業だから」という理由で選択して欲しくないということです。私はアメリカに交換留学した経験を持ちますが、もっと日本人大学生は学びに対して積極的に主体的であるべきだと思います。先生は給料をもらって授業をし、生徒は授業料を払って授業を受けています。したがって、先生方は学生に対し意義ある授業を展開すべきであるし、学生はその道の専門家である先生方の授業から多くを学ぶ権利があります。大学教育のはじめの一步として、全学共通科目受講の意味を改めて各々が自覚し前向きに取り組む姿勢が学生に求められている、と私は考えます。



## 工学部生命工学科3年 水谷 洵紀

教養教育推進センター長である福士先生の講義の中で学生相談員を募集していると聞いたのをきっかけに今回応募させていただきました。福士先生には1年生のときにも全共でお世話になっていて、そのとき先生の人柄に惹かれてもっと先生と関わりたいと思っていました。大学ではなかなか先生と直接話すこともありませんし、同じ学科の先生ならまだしも、他学部他学科の先生と関わるなんてほとんどありません。そういう意味でも今回は良い機会だと思いました。

学生相談員の仲間はみんな有志で集まっていて、もっと全学共通教育をよりよくしていきたいという思いに満ち溢れていて圧倒されました。他学部の人や他学年の人もたくさんいてこの相談員を通して人脈が広がったのはよかったと思いました。全共の事務室の人ともこの機会を逃したら一生関わるなんてなかったことでしょう。そんな人たちと短い間でしたが一緒に行動する良い機会を得ました。岐阜大学を良くしていきたいという思いはみんな同じでした。

ガイダンスの補助をしていて感じたのは、新生生のなかにあまり真剣にガイダンスを聞いていない子もいるということです。疲れがたまっているのは分かりますが、それでもガイダンスの内容に省けるところもありませんし、先生たちの熱い気持ちをなんとか新生生に伝えたいと思いました。

それでもよかったと思えることもありました。それは外国語希望調査のときです。出会ったばかりでなかなか友達ができていない新生生には学生相談員の存在は大きかったと思います。生徒の立場から感じた意見をくださいと聞かれることも多く、十分に役割は果たせたと思います。

学生相談員を経験して大切だと感じたのは、人とのつながりです。世の中にはまだまだ知らないおもしろい人がいっぱいいます。そんな人たちに積極的に関わって姿勢が大事だと思います。そんな機会のひとつが学生相談員だと思います。僕たちの姿を見て自分もやってみたいと思える人が一人でもいてくれたらうれしいです。



## 応用生物科学部食品生命科学課程2年 伊藤 千弘

一番印象に残ったのは全学共通事務室の方々が学生のことを本当に親身になって考えている姿でした。1・2年の全共を受けていた頃、学務に寄ること自体があまりありませんでしたが、今回事務室の中に入ると学生が大学生活を少しでも困らないように学生相談員の配置や新たな履修取り消し期間の提案など細やかなところまで気を配っていることを知りました。そのような優しさ以前は気づかなかつたことを後悔しつつも、慣れない大学生活のサポート体制に感動しました。また、事務職員側から学生相談員に意見を所々聞いていただけるような雰囲気を作ってくださいのおかげで学生側としては事務職員の方々が先生の予想外な意見や教育現場の現状を交換することができ、とても楽しかったです。

ガイダンスやWeb履修に参加して、私の入学した時に比べると年々学生が相談しやすい雰囲気だと感じました。しかし、一方で私が1年の時疑問に思った内容が今回も新生生から質問されたため、これからの対処の仕方を事務職員と学生と一緒に考えなければならないと思いました。意外だと思ったのは相談場所や学生相談員の存在を知らなかったという新生生が多かったことです。実際手伝いをしている側としては盲点だと思いました。4月下旬に行った事務職員と学生の懇談会では改善する点だけでなく、このような今の良い受け入れ態勢をどうやって新生生に伝えるかについても議題に挙がりました。この議題は運営する方ではなかなか気づきにくく、現在の学生がどのような場所をよく通り、どこが目立つか今までの大学生活を思い返して色々提案ができたのはよかったです。

今まで先生や事務室の方々がやっていたことを学生が行うのは今後も取り入れてほしいです。大学は高校とは違って学生が自立しなければならない場所だと思います。ですから実際担当して難しさや現状を直接知り、ではどんな工夫や対処をするか先生に助言をもらいつつ学生が考え実行する機会はいろんな学生に経験していただくことを希望します。

